



施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602
3月の休館日：1月、8月、15月、23火、29月

3月14日(日) 14:00~ 大阪音楽大学出張講座
自由 オペラ物知り講座inひこね vol.3「蝶々夫人」

3月15日(月) 19:00~
指定 ザ・ジェイド春コンサート2010
◎オペラ界の4大トップスターによる奇跡のヴォーカルグループ!今、音楽業界の話題をさらっています。

4月25日(日) 15:00~ ミュージカル
ラスト・ファイヴ・イヤーズ
演出：鈴木勝秀
出演：山本耕史、村川絵梨
指定 S席6,800円、A席6,000円



4月27日(火) 19:00~
指定 金亀亭第6回落語ライブ
立川談春独演会
指定 3,500円



5月3日(月祝) 15:00~
指定 宮川彬良&アンサンブル・ベガ

5月21日(金) 19:00~
指定 岡安芳明カルテット ミーツ 小林桂

6月12日(土) 18:30~ 劇団四季ミュージカル
指定 ソング&ダンス55ステップス

6月26日(土) 12:30/15:00 (2回公演)
<こどもちゃれんじ>コンサート
しまじろう みんなでたんけん!
みなみのしま
◎2年ぶりの新作!陽気で明るい、南の島ならではの楽しい舞台演出や歌・ダンスも必見です。
指定 1,500円 ※3歳以上有料
【3月7日(日)発売 ※初日は電話、インターネットのみ】



ひこね市民大学講座2010歴史手習塾

詳しい内容は、広報ひこね2月15日号10ページをご覧ください。

セミナー1 4月9日(金)、16日(金)、23日(金) 18:30~
新しい江戸イメージ!
講師：大石 学さん

セミナー2 5月12日(水)、19日(水)、26日(水) 19:00~
戦国彦根の城郭講座
講師：中井 均さん

セミナー3 7月6日(火)、16日(金)、23日(金) 18:30~
NHK大河ドラマから見た歴史
講師：佐藤 宏之さん、野本 禎司さん、三野 行徳さん

チケットのお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00~19:00)
インターネットでも購入いただけます。http://bunpla.jp/

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520
3月の休館はありません。
※3月9日(火)~同11日(木)は展示替えのため、展示室を一部閉室しています。

開館時間 8:30~17:00 (入館は16:30まで)

「井伊家伝来・能の小道具」

普段はあまり注目されることのない能の小道具。井伊家15代直忠が自ら収集した多様な小道具の数々を紹介します。



▲竜載

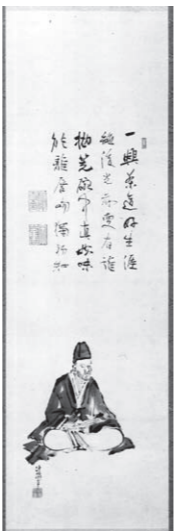
ギャラリートーク
「井伊家伝来・能の小道具」
3月13日(土) 14:00~15:00
解説：本館学芸員 降矢 淳子
※事前申し込みは不要です。当日、館内講堂にお集まりください。

観覧料が必要です

幕末の大老、井伊直弼(1815~1860)は、国政を担う政治家として知られる一方、茶の湯や国学、禅、居合などにひたむきに取り組む、文化人としての面をあわせ持っていました。このコーナーでは、直弼ゆかりのさまざまな作品を集め、その人となりを紹介します。

千利休画賛 井伊直弼賛

侘び茶の大成者・千利休の肖像画に直弼が賛をしたための掛軸。漢詩で利休をたたえています。



常設展の名品

扇にみる花

草木が色とりどりの花を咲かせる春になりました。花のデザインは、能の装束や小道具に多く取り入れられており、中でも、扇にはたくさん種類の花が描かれています。華やかな彩色で美しく描かれた扇の花ですが、能を観ている目立ちません。そもそも、能面や能装束に目を奪われて、扇に注目することはあまりないのではないのでしょうか。



▲写真1 鉄線若松図狂女扇



▲写真2 一輪牡丹図鬼扇

扇は、すべての演者が手にする特に重要な小道具です。骨が15本あり、閉じたときでも先端が銀杏の葉のように広がるものを中啓といい、骨が10本で全体が閉じるものを鎮扇(または鎮折扇)といいます。能面や能装束を着けずに紋付袴または袷で演じる時には鎮扇を、それ以外は中啓を持ちます。扇に描かれる絵は、能の曲目の分類によっておおよその決まりがありますが、流派によって異なります。

井伊家15代直忠は、観世流の梅若家に師事し、生涯を能に打ち込みました。彦根城博物館が所蔵している80握を超える扇は、直忠が収集したものと考えられます。その中に、観世流の決まり模様が描かれている鉄線若松図狂女扇と一輪牡丹図鬼扇があります。

鉄線若松図が描かれている扇は、狂女を演じる時に使います。狂女は、主に中年の女性で、別離した肉親や恋人と再会する筋立ての時に登場します。金箔を地に、中央から稲妻のように線を引いて画面を左右に分け、左に白と青みがかった鉄線の花を、右に若松を描いています。能において、若い女性の役柄は、赤い色の装束や小道具を、中年の女性の役柄は、赤い色の入らないものを身に着けるので、この扇には赤い色が入っていません。金色で牡丹唐草が描かれた紺地を鉄線の上と若松の中央に配っています。

左右に分けた画面と、これから成長する若松を紺地で遮る構図には、親しい者との別離を、柵に絡みつくながら花を咲かせる鉄線には、別離による悲しみに捕らわれている思いが表現されているのかもしれない。観世流では、一輪牡丹図が描かれている扇は、演目「道成寺」の鬼が必ず手にするものです。金色の唐草文様が描かれた真つ赤な地に、見事に花咲く一輪の牡丹が描かれています。「道成寺」の主人公の女性は、恋しい男に裏切られたと思いついて焼き殺し、鬼になります。大輪の牡丹は、女の恋の執念を表しているともいわれています。

写真の「鉄線若松図狂女扇」と「一輪牡丹図鬼扇」は、テーマ展「井伊家伝来・能の小道具」で、3月12日(金)~4月13日(火)で展示します。(期間中無休)

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ



第163回